発行所（郵便番号100）
東京都千代田区丸の内2－4－1
丸ノ内ビルヂング781号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel（212）4007・1447
編集責任者　中嶋　博
印刷所　関東図書株式会社
定価200円（年間購読料参千円）
1987年1月25日発行
第19巻　第1号
（毎月1回25日発行）
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 19 No. 1

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

年頭御挨拶

Message for the New Year

理事長　西村光夫
Chairman of the Board of Directors, Prof. Teruo Nishimura

新年おめでとうございます。皆様にも御機嫌よく新年をお迎へになられたことと心より御慶び申し上げます。さて本年は当研究所の創立二十周年に当ります。早いもので、まだまだこれからと思っておりますうちに、二十年の歳月が過ぎてしまいました。

早いと申しても、二十年はやはり二十年で、そのあいだには内外とも多くの変遷が経験されました。スウェーデンでは政府が社民 ── 保守 ── 社民と変転があり、パルメ首相暗殺といった不祥事もありました。経済もややよくなってきたとは申せ、他の先進国と同様容易ならざる歩みを続けております。ソ連潜水艦の問題を始め国防上も難局を脱し得ません。

わが国の方は変化はさらに激しいものがありました。当会の成立した昭和四十二年には経済の高度成長がまだ緒に就いて間もない頃でありました。わが国はその高度成長を背景に、福祉国家の建設に歩み出したところでありました。この福祉国家建設という大事業に乗り出した日本で、その事業の美事な成功者としてのスウェーデンの姿に着目すべきであったことは当然であったのであります。しかし米英佛といった大国にばかり目を向け勝ちの日本では、小国スウェーデンのことについては、甚だ目が行き届いていなかったのであります。

小数の有志がこの状況を改善すべく、スウェーデンひいてはスカンジナビア諸国について広く深い研究を進めたいとし出来たのが当研究所の創設でありました。

幸い当研究所の存在と仕事とは、遂次各方面から温かい御理解と御支援を頂き、無事二十年の歳月をけみすることが出来ました。一重にみなさまの御高庇護の賜と厚く感謝しております。

いま当研究所が無事二十年を経たと申し上げましたが、これは決して少しも骨が折れなかったという意味ではありません。それは発足以来松前会長、故大平理事長はじめ、役員の方々が全く無報酬で、御多忙の中を犠牲的に努力を重ねてきて下った御蔭であり、そのことに対してはいくら感謝しても足りないものを感じます。また背後から資金的に御援助を賜った諸法人機関の方々にも併せて心よりの御礼を申し上げます。さらにスウェーデンに於て王室はじめ深い理解と後援と親近感を示し、日瑞両国の親善と学術並び人的交流に大きく貢献して下さったことは、今では当研究所の大きな宝ともなり、日本への貢献にもなったと喜びに堪へないところであります。

以上の次第でこの二十年は、活動としてはわれわれの希望の半ばにも達しませんでしたが、少なからざる意義はあったと信じております。これからなおしたいこと、しなければならぬことはまだ山程あります。今後一層努力を重ねて、研究所の存在意義を高め、みなさまの御期待に添いたいと決意しております。終りに臨んでみなさまの一層の御健勝と御発展をお祈り致します。

目　次

年頭御挨拶……西村光夫…1
謹賀新年……松前重義…2
Messages for the New Year…
……ウーベ・ヘイマン大使…2
スウェーデンの冬休み……三瓶恵子…3
ＳＩＰニュース……5
昭和61年度事業報告……5

謹　賀　新　年

年頭に当り、皆様の御健祥をお祈り申し上げます。

会長　松　前　重　義

President, Dr. Shigeyoshi Matsumae

Messages for the New Year

Mr. Ove Heyman
Ambassador of Sweden

Having recently arrived in Japan, it is a particular pleasure for me to convey my New Year's Greetings to all JISSS members.

As I have already had the pleasure of meeting some of the JISSS members, I know the important work carried out by JISSS in the field of social sciences.

In Sweden the past year has brought a reminder that even a stable society like Sweden is not free from meaningless and devastating terror. The murder of Prime Minister Olof Palme was a shock to the Swedish people. The social fabric of the Swedish Society, however, proved to be stable and the resolve of the Swedish Government to continue work for a social system built on solidarity and for international peace and development remained strong.

Let me also take this opportunity to tell you that the five Nordic countries, through the Nordic Council of Ministers, have decided to undertake a major cultural manifestation in the autumn of this year. Two major exhibitions will be at the core of the manifestation. One of them will show Nordic industrial design during the past 15 years. The other exhibition will be an introduction to Scandinavian art between the year 1900 and today. Apart from that there will be two handicraft exhibitions, a film festival and a festival of music. The cultural manifestation will be officially inaugurated on 1st November 1987 at a gala concert with the NHK Symphony Orchestra and with the famous Swedish pianist Staffan Scheja as a soloist.

In connection with the Scandinavian manifestation there will also be a Swedish exhibition showing contemporary Swedish textile art. This exhibition will be presented at the National Museum of Modern Art in Kyoto during the summer of 1987. From 1st of November it will be shown at the Setagaya Museum of Modern Art. Other plans for Swedish activities include a photo exhibition, a ceramics exhibition, music and dance.

It is my sincere hope that this manifestation will further the cultural ties between our two countries and also give a base for further common activities.

Mrs. Anita Nässström

In this connection let me also introduce Mrs. Anita Nässström, the new Press Attaché of the Swedish Embassy. Mrs. Nässström replaced Mr. Robach last October, and will among others be in charge of the cultural manifestation.

It is my sincere hope that the relations between JISSS and the Sweden Embassy will continue to be frequent and fruitful this coming year.

〈Göteborg 通信〉

スウェーデンの冬休み
Christmas and New Year Holidays in Sweden

会員　三　瓶　恵　子
Ms. Keiko kjellsson－Sampei

例年になく暖かい秋で、まだ＋5°～10℃前後の気温が続いています。道路も凍っていないのでまだ車に冬用のスパイク・タイヤをとりつけずにすんだり、毛糸の帽子なしで外出できたり、よいことも多いのですが、毎日雨ばかりでそれでなくても一年中で一番暗い季節なのに暗さが増して憂うつな気分になります。

この憂うつな季節をのりきるには楽しい冬休みのことを考えるのが一番、という生活の知恵なのかどうか、街は歳末商戦たけなわです。今回はお正月号ということで、正月休みのことを何か書こうと思ったのですが、こちらではやはりお正月よりクリスマスの方がメインなので、クリスマスのことから書こうと思います。

まず「スウェーデンの農村の伝統的なクリスマス・カレンダー」というのがありましたので、それをご紹介します。

12月1日　麻とウールの織物を完成させる
2　クリスマスのための洗濯物を洗う
3　クリスマス・カードを買う
4　ルシア祭とクリスマスのためのろうそくを作る
5　クリスマスのための洗濯物にアイロンをかける
6　クリスマス・プレゼントを包む
7　クリスマスの飾りのヤギやにわとりを飾る
8　ルシア祭の準備
9　クリスマスのためのビールが熟成する
10　クリスマスのごちそうの豚を屠る
11　すべての脱穀を終える
12　クリスマス・チーズの味見をする

13　ルシア祭
14　銅、錫、真ちゅう製品をみがく
15　クリスマスの飾りの麦束を束ねる
16　クリスマスのためのお菓子・パンを焼く
17　クリスマスのためのビールを試飲する
18　クリスマスの豚の味見をする
19　トーマス節（せつ）のミサのためのまきを作る
20　クリスマスのための大そうじを始める
21　トーマス節のミサのために街に行く
22　クリスマスのためにお風呂に入る
23　クリスマスのごちそうをテーブルにならべ始める
24　クリスマス・ツリーを庭にうつす

現代はこれほどまでにクリスマス中心ではないと思いますが、1カ月以上も前からクリスマス・プレゼントの物色をするおばあさん、おじいさん、欲しいもののリストを作って親に提出する子ども達等、やはり、クリスマスは一年中で最大のイベントであるようです。

11月半ばをすぎると街中に早々とクリスマスの電飾がほどこされ、大きな広場のまん中にクリスマス・ツリーが立てられます。クリスマス用得用切手とクリスマス・マークが郵便局で売り出されるのが11月下旬、最初のアドベント（クリスマス前の4週間の日曜日に4本並んだろうそくに火をともします。第1日目は1本、第2日目は2本というふうに本数をふやしていくので、4日目、つまり4週間後には4本の段々になったろうそくに火をともすことになります。）は、いつも大体11月の終りです。（その年の曜日のかねあいによってもっと早くなることがありますが。）。

12月13日のルシア祭（頭にろうそくを飾ったルシアがお伴をひきつれて、「明るい光」をみたしに、サンタ・ルチアの歌を歌いながら行進します。）にむけて各地で「今年のルシア」の投票がおこなわれます。一種の美人コンテストのようなものでもありますが。

12月第2週をすぎるとおかあさん達の目がつりあがってきます。いつもは大変簡素な食事しかしないスウェーデンの家庭も、クリスマスばかりはごちそうをそろえなければなりません。「アルカリ漬けの魚」とか「豚の足のゼリー固め」とかいった伝統的な、外国人にとっては少々げてもの風にみえる料理は作らないまでも、クリスマス用ハムとかクリスマス用肉だんごくらいは作りおきしておかないと……というので12月の市場は大変な人出です。

学校は大体19日ごろに休みになります。それからクリスマスまではただひたすらプレゼントを楽しみに待つ日々。24日に恒例のディズニー映画（もう何十年も続いているディズニーまんがのクリスマス特別番組で、毎年同じものを放映するのですが毎年大変高い視聴率をとる番組だそうです。ここ数年は最後の5分くらいその年に公開されたディズニーのまんが映画の一部も付録で放映されます。）を見終わるとようやくプレゼント交換の時がきます。

25日から31日までは「中間の日々」といって、友人を訪問したり、ちょうどこの時期に返ってくる（逆に払いこまねばならない人ももちろんいるのですが）税金の払い戻し金をもってクリスマス商戦で売れ残ったものを安売りする店々に行ったりします。

12月31日の夜は、あまりおもしろくもないテレビの特別番組を眠い目をこすりながら見、新年になる瞬間にシャンペンやジュースあるいはクリスマス用サイダー等で乾杯します。外では新年を祝う花火があげられます。

1月1日は祝日ですが2日からはもう普通の日で、長いクリスマス休みに飽きた人々はあまりグチもいわず仕事場に戻ります。しかし、1月6日の「クリスマスから13日後」の祝日まで年次休暇をとって休む人も少なくありません。学校も1月6日までは休みです。

クリスマスの日々（24日～26日）と1月6日の祝日には、教会その他でコーラスのコンサートがおこなわれます。クリスマスの時期に自分がキリスト教徒だということを思い出す人も多いのかもしれません。

クリスマス・新年の休みを利用して海外旅行をする人はそれほど多くありません。休みが短いのと、クリスマス・プレゼントを贈ったり贈られたりする関係でしょう。2月にスキー大会（バーサ・ロッペット）がおこなわれるダーラナ地方にクリスマス休暇を利用してスキー旅行にでかけるのは人気があるようです。寒い時期にはそれを楽しむためにより寒い方へ、夏にはより暑い地中海へ出かけるのがスウェーデン式思考法のようです。

1986年はパルメ首相暗殺事件、チェルノブイリの原発事故等があった不幸な年でした。1987年は幸福な年でありますように。

スウェーデン企業取得への海外の関心

物価カルテル庁の発表によると、スウェーデン企業取得への海外の関心が高まっているという。1986年度上半期の外資系企業によるスウェーデン企業の取得は、57企業、労働力にして9,000人以上に達した。主なバイヤーは、フィンランド企業で、その接収数は第２四半期のみで６社（従業員数4,400人）にのぼった。

フィンランド企業による最大の接収は、オートカンプグループ（the Outokumpu group）によるもので、同グループは、エレクトロラックス（the Electrolux）グループから、グレンゲス・メタルベルケン（Gränges Metallverken）とヴィルスポ・ブリュック（Wirsbo Bruk）の二社を接収した。また、1985年来、ノルドシャーナン（Nordstjernan）グループは、取引高にして総額45億クローナ（1,035億円）にのぼる傘下の企業（従業員数5,000人を外資系企業に売却した。）

スウェーデンの自動車保有率は、1,000人当たり391台

ビールスタティスティーク社（AB Bilstatistik）の発表によると、本年度１－８月期のスウェーデンの新車登録は、昨年同期比で６％減16万6,138台であった。８月のみの登録台数は、昨年同月比で10％増の1万3,948台であった。

また、本年８月末の乗用車の実質走行台数は、一年前に比して2.8％増の327万1,657台であったが、中央統計局によると、これは、スウェーデンの自動車保有率が住民1,000人当たり391台であることを表しているということである。なお、オートバイの台数は、５％減9万8,252台であった。

社団法人スウェーデン社会研究所
昭和61年度（暦年）事業報告

1．研究会

1月　福祉問題研究会開催　（講師）理事　早稲田大学教授　岡沢憲芙氏
（テーマ）福祉社会スウェーデンの苦悩

4月　幼児保育問題研究会開催　（講師）埼玉県立衛生短期大学講師　荒井洌氏
（テーマ）スウェーデンの幼児保育の特徴と保育者養成教育について

5月　都市交通問題研究会開催　（講師）帝都高速度交通営団参事　小山徹氏
（テーマ）ストックホルムの都市交通 ── 20年前と今日

7月　婦人問題研究会開催　（講師）会員　三瓶恵子氏
（テーマ）スウェーデンの女性

11月　幼児保育問題研究会開催　（講師）埼玉県立衛生短期大学講師　荒井洌氏
（テーマ）スウェーデンの幼児保育の特徴 ── わが国の検討課題から見る

2．公開講演会

5月　松前国際友好財団と共催、スウェーデン大使館後援にて、ストックホルム大学社会学教授 Robert Erikson 氏の公開講演会（司会、丸尾直美理事）を開催　（テーマ）福祉国家の教訓と展望

6月　健康保険組合連合会および国際社会保障研究会の後援で、ルンド大学の Bertil Steen 教授の公開講演会（コーディネーター、国立療養所琉球病院医長　佐久川肇氏）を開催　（テーマ）スウェーデンの老人医療の現状と課題

9月　スウェーデン大使館と共催にて、スウェーデン工業省産業構造局長 Carl Fredriksson 氏の公開講演会を開催　（テーマ）スウェーデンの産業の現状と産業政策

3．国際交流

1月　ＮＨＫラジオ番組「世界の教育改革」第１回スウェーデン編で、ウプサラ大学の Urban Dahllöf 教授と国連大学特別顧問永井道雄博士、当研究所中嶋博常務理事の討論が放送された。

2月　リンシェーピング大学の Ingemar Lind 氏と学際問題につき懇談した。

7月　Gunnar Lonaeus 駐日大使夫妻及び Magnus Robach 大使館報道官夫妻の送別会を開催した。

10月　スウェーデン地方自治体連合会教育コンサルタントの Marrianne Wedin 女史が、当研究所中嶋博常務理事の案内により、わが国の中学校におけるコンピューター教育の実情を視察した。

11月　中国訪問の帰途来日したストックホルム大学名誉教授、スウェーデン王立科学アカデミー会員の Torsten Husén 博士を、当研究所西村光夫理事長および中嶋博常務理事が表敬訪問し、教育問題につき懇談した。

4．出　版

毎月　スウェーデン社会研究月報　発行

12月　研究所資料第26号　ロバート・エリクソン博士講演
「福祉国家の教訓と展望」丸尾直美理事訳、発行

（編集中）当研究所創立20周年記念出版（昭和62年２月刊行予定）
「スウェーデン・ハンドブック」の編集

5．視察団派遣

7月　北欧幼児保育調査視察団の派遣（スウェーデン、ノルウェー、フィンランド）
団長、埼玉県立衛生短期大学講師　荒井洌氏

6．スウェーデン語講習会（各10週間宛）

1月　高等科（12月開講分の継続）

2月　第60回（普通科）開講

4月　高等科開講

5月　第61回（普通科）開講

9月　第62回（普通科）開講

10月　高等科開講

7．日瑞基金よりの委託業務

科学技術研究者のスウェーデンへの派遣事業（当初以来累計53名）

ご案内

スウェーデン国立エーテボリ交響楽団演奏会

スウェーデン国立エーテボリ交響楽団が、初めて来日し、各地で演奏会を開催しますが、東京では、２月18日にサントリーホールで、２月26日には昭和女子大学人見記念講堂で開催いたします。

詳細は、梶本音楽事務所（電話 03-573-3588）へお問合せ下さい。（特典　10％割引）